

収穫を祝い、農作業の労苦を忘れる「秋忘れ」という言葉がある。秋の作業が終わり家族全員で収穫したコメや野菜を持参して

# 富田守男 （現場）からの風

519

自炊しながら、温泉で疲れを癒やした湯治を経験した人が少なくなった。最近は家族全員で農作業をする風景をほとんど見受けられない。そのためではないだろうが、農業に從事した親が農業作業をできなくなつた家庭は、ほとんど離農するケースが多くなつた気がする。

親の農作業の姿を肌で感じ、農業の楽しさを知つたからこそ引き継がれた職業でもあるのだが、過酷な労働と収益性の悪さから衰退してしまつたのが今の農業の実態なのだろう。できる限り家庭

でも体験させる事が大切ではないだろうか。現在は農業経営している家庭も少ない中、地域教育の中で可能な体験機会を与える事が食料自給率問題を考えさせることも更に大切だ。

## 意味合いを考えよう

文化庁が毎年行う「国語に関する世論調査」。時代とともに、意味合いが変わつたことや思う事が多くなつた。良く使う「ありがたい」という言葉源はどういう意味に

意味から、感謝の意を示す言葉に。「大丈夫」は、もともと立派な勇気を示す言葉だったが、いまは危なないこと、安心していられる意味に。失望してぼんやりする様子を指す「ぶぜん」は腹を立てて

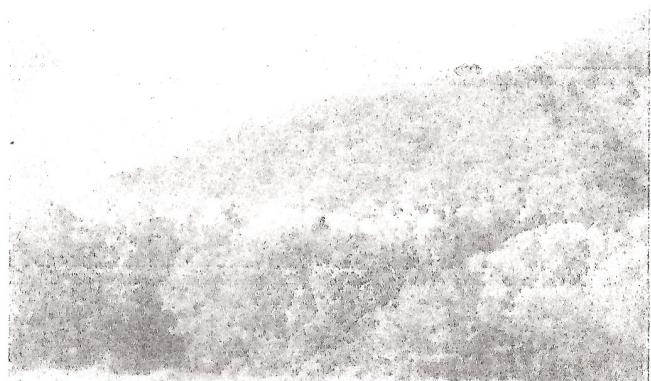
いる様子の意味に。無味乾燥でつまらないことを表す「砂をかむよう」は悔しくてたまらない様子の意味に。

耕太郎さんは、「旅する力」の著者・沢木耕太郎さんは、「旅する」について、「大事な目的について、「大事なのは行く過程で、何を感じられたか」。目的地に着く事よりも、行きかう入をどう感受できるかという観光関係者が、政治家や知識人

がほるかに大切」と記している。訪れる人は、異文化に生きる現地の人々との交流を望むに違いない。観光関係者だけでなく、地域

住民一体になつた取り組みが今求められているに違いない。

(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



秋の穂やかな日々が「秋忘れ」を誘うようだ